



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫 ■ 「聖地旅行」その⑩

その夜のことだ。一行としては初めて自由時間が与えられたので、お互いに自己紹介をし合うことになった。二十六名はそれぞれ出身教会が違うし、教団も異なる。遠くは姉のようにワシントン州から、三名は北加から、そして二名はアリゾナ州からの参加である。ほとんどが初めての聖地旅行で僕よりも二高年齢である。これら一行は四チームに分けられ、それぞれリーダーを立ててグループで祈ったり、バスの乗降の際にも人数を確信してもらったりした。だから僕はそのサブリーダーに人数確認をすれば良かったのだが、一人でもはぐれたり、トラブルがあったらどうしようかと思うと、旅の終始大きな重荷であった。

六日目はエルサレム探訪だ。先ず神殿の西壁だ。そこは男女に分かれていて、向かって左側が男性の祈り場になる。五十メートル以上の壁に二千年の歴史が刻まれていて、ユダヤ人教師たちが頭を壁にぶつけるようにして夜に日を継いで祈っている。詩篇全体を毎朝朗誦する人もいるという。もちろん、それが彼らの仕事なので、そのために家計は奥さんが支えるという。僕も壁に手をつけて心を注ぎ出して家族、教会そして一人一人の名をあげて祈った。そこには祈りの波がある。一人が祈り出すと皆が唱和し、それがうねりとなるのだ。実に不思議な世界である。その後、僕は翌日を除いて、エルサレムを去るまで、ここで朝ごとに祈ることになる。ホテルから歩いて二十分も懸からないからだ。

それからドロローサ(悲しみの道)という隘路を通った。ここは主が十字架を背負ってゴルゴダという丘の上で十字架につけられるために通った道である。その両側には店頭の商品が所狭しと並べられていて、呼子の声が軒先でかまびすしい。一行の行く道には他にも多くの旅行者たちが行き来するし、その狭い道に物品を満載したトラックも入って来るので、それはそれは喧騒である。

そこで思った。二千年前の主イエスの時代、十字架を背負った主と共に嘆き悲しむ人たちが少なからず居たのだが、多くは主の痛みや人々の嘆きを聞くこともせず、大声を上げて商品を振りかざし、「安いよ、一シリングだ」などと叫んでいたのではないかと。というのも、その日はエルサレム近郊から百万とも二百万ともいわれる人々が神殿に詣でる「過ぎ越しの祭り」だったからだ。商売には絶好のチャンスだ。だから、もしそこに僕も生きていたら、彼らと同じく叫んでいたのではないかと思う。「義人はいない。ひとりもない」(ローマ三・10)とパウロは叫ぶが、義人にはなれない自分がそこにいた(続く)。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

